



教室  
実施型

伝統文化親子教室事業  
優良事例調査②

文弥人形芝居に使用される人形

舞台中央奥にある二重舞台の「御殿」

保護者も参加する稽古前のミーティング

成果発表(お披露目会)の舞台

佐渡市の伝統文化親子教室事業の担当者にお話を伺いました

佐渡人形芝居親子教室

佐渡人形芝居親子教室は、「佐渡の豊かな文化を守り、未来に引き継ぐとともに、文化資源の活用を通じ、生き生きとした地域住民の暮らしの実現に寄与すること」を目的に2018年に設立された一般財団法人佐渡文化財団が主催しています。

佐渡島には多くの民俗芸能が存在しています。ただ、島で唯一国の重要無形民俗文化財に指定されている「佐渡の人形芝居」の現場で、他の「鬼太鼓」とか「民謡」に比べてあまり子どもたちを見かけないと感じたので、人形芝居の文化継承のため担い手作りの支援をと、設定して3年目になります。

今の子どもたちにとって、「人形芝居」は他の芸能に比べて観たり触れたりする機会が少ないので、まずは人形に触れるところから体験を始めました。そこで興味・関心を持ってくれた子どもたちが後々伝統文化の担い手となるよう「種まき」のような考えで取り組んでいます。

親子教室の会場は、保護者の送迎に便利な島の中央部に位置した「ときわ館」に設定しました。そこで文弥人形を継承している常盤座の



指導を受けて開催しています。まだ、発足して3年目ですが、伝統の燈を絶やさぬよう努めてまいります。

一般財団法人佐渡文化財団  
事務局長：宇治 美徳

■佐渡人形芝居親子教室では島内の全対象児童・生徒（小学3年〜中学3年）に募集チラシを配布しています。その他、公民館やスーパーにポスターを掲載して募集の告知をしています。

■教室のカリキュラム(演目)は人形芝居になじみが薄い子どもたちにも楽しんでもらうため、人形遣いを中心に構成しました。ただ、毎年参加していただいている子どもも増えてきたので、今年は「太夫」の引き語りの内容も加えました。

■伝統文化親子教室の運営で昨年まで参加費を徴収していましたが、もっと気軽に見学から参加していただきたいと無料にしました。親子教室の人形芝居を通して、子どもたちと各世代の先生方やスタッフとの交流につながる貴重な場となっています。また、子どもたちも学区を超えて集まってくることで、毎回顔を会わせることでお友達となり仲間の輪が広がっています。高校卒業後、島を離れてまた戻って来た時に教室の仲間の人形芝居を始められたりしたら嬉しいです。

■佐渡人形芝居の継承について佐渡の人形座は、島の各地に点在しています。人形芝居を学んでいる子どもたちが家の近くの人形座に入会して既存の座員の方々と人形芝居を続けていくことが最終的に文化継承へつながると思います。そのためには、今、1ヶ所の会場で開催している教室も各人形座がある地域で臨時的にサテライト開催することも面白いかなと考えています。今後佐渡の伝統芸能を大事に想ってくれる人材の育成に努めていきます。

地域での活動

受講生の保護者・家族以外の一般の方にも見てもらうとお披露目を開催している。

また、明治期には50余りの人形座が存在し、数十年前まで開催されていた「佐渡人形芝居保存会」の定期公演が2021年に復活した際に合わせて教室の子どもたちも出演しています。人形座の大人の座員に交じって地域に残る伝統文化のPR活動に取り組みました。

活動スケジュール

- 2024年 9月～11月 全8回の教室
- 11月 佐渡人形芝居保存会定期公演
- 12月 成果発表お披露目会

スケジュールは、一般財団法人佐渡文化財団のHPで告知。また、佐渡市の情報媒体でも周知している。

関係者(関係機関)

- 佐渡市教育委員会
- 佐渡人形芝居保存会
- 佐渡市立 各小学校
- 佐渡市立 各中学校

文化財団事務局中心に教育委員会などに共催の依頼を行う。また、佐渡市から周知や本公演のスタッフなどの人材協力もいただいている。

指導者

- 講師 和田 登志江 (常盤座 座長)
- 補佐 常盤座の座員から 2～3名



常盤座座長 和田 登志江先生

沿革

- 2018年 新潟県佐渡市にて一般財団法人佐渡文化財団設立
- 2022年 伝統文化親子教室事業参画
- 2024年

活動場所

主に新潟県佐渡市ときわ館(常盤座)にて



ときわ館の2階が常設の稽古場

教室参加者

- 対象 小学3年生～中学3年生
- 2022年 全体で計10人
- 2023年 全体で計10人
- 2024年 全体で計10人

3年連続の受講者 計 4名

地域に根付く伝統文化を自治体と連携した取組  
佐渡人形芝居親子教室

伝等文化親子教室  
訪問インタビュー



【Nさん】

中学校1年生/1年目

■教室に通い始めた理由は？

小学校では何もしていなかったのですが、元々人形劇が好きで学校の総合学習で「巴御前」をやっていた時に、たまたまチラシを見てやろうーと思いました。

■教室に通ってみての感想は？

学校だと大勢での勉強になるので自分だけを教えてもらうことができなけれど、親子教室だと一対一で教えてもらえるので上手くなり易いと思います。

■今後の目標は？

まずは、伝等文化に楽しく関わっていききたいーと思っています。



【Sさん】

小学校5年生/3年目

■教室に通い始めた理由は？

文弥人形は楽しそうと思ったのと、以前も通っていて(小学3年生から)三味線を習っている友達と一緒に親子教室に入りました。

■教室に通ってみての感想は？

忘れた事もいっぱいあったけど、先生から教えてもらって色々できるよになつてとてもうれしいです。知っている子が沢山いてみんな仲がいいです。入って3年目なのでほとんど同じ人と一緒なので、全員が友達になつています。

発表会などで他の文弥人形などを見たときにストーリーがわかった時とても楽しく感じ面白くなりました。

■今後の目標は？

新しい演目をやると聞いていたので、そこを頑張つてやっていきたいです。



【Hさん】

小学校6年生/3年目

■教室に通い始めた理由は？

文弥人形はよく見ていたけど、実際にやった事がなく、昔の言葉など面白いけどわからなかったのでもう少し意味がわかりたいと思った時、学校でチラシを見て言葉を勉強して人形も動かしてみたかったからです。

■教室に通ってみての感想は？

4年生と5年生の時は同じ演目だったので段々と意味がわかって面白くなってきたし、人形も最初は重く感じ顔も動かせなかったけど、慣れてきたら色々細かいところまで出来るようになって楽しくなってきました。今年の演目は戦う部分が激しくなって面白いです。

■今後の目標は？

色々な伝等文化を学んで、下の世代に伝えていきたいです。



Hさん(左)と受講生の仲間たち



ミーティング風景

人形は子どもたちにとってかなりの重さなので休憩をはさみ生徒の状態を聞き取ります。



稽古風景



稽古風景

佐渡人形芝居 常磐座の文弥人形芝居で使用するさしこみ式の人形は頭が前後左右に動くので、特に頭(かしら)の動きに注視して指導します。



稽古風景



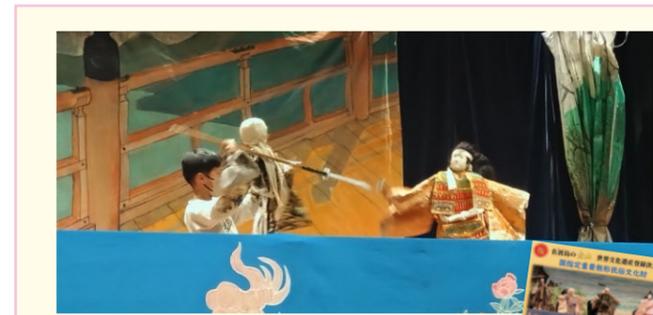
稽古風景

稽古する演目にはわかりやすい義経と弁慶のくたりを取り入れて、人形の動きなどの練習を行います。



稽古風景

最終の12月に行われるお披露目会(成果発表)に向けて3人での立ち回りの稽古に熱が入ります。



佐渡人形芝居保存会定期公演に出演

11月10日(日) アミューズメント佐渡で開催された佐渡人形芝居保存会定期公演に保存会に所属する7つの人形座と共に佐渡人形芝居親子教室の子どもたちが出演しました。



稽古風景

3年目に入り、今まではテープの音で芝居をしていたけれど太夫の弾き語りにチャレンジするため、三味線の稽古もしました。